

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

パブリックサービスR&C合同会社

②事業者情報

名称： グループホームあいびす	種別： 共同生活援助
代表者氏名： 岡崎 正英	定員(利用人数)： 20 (20) 名
所在地： 〒344-0007 埼玉県春日部市小淵516-6	
Tel. 048-795-4777	

③評価実施期間

令和 7 年 5 月 1 日 (契約日) ~ 令和 8 年 3 月 31 日 (評価結果確定日)

④総評

◇特に評価の高い点

○利用者一人ひとりの意向や特性に合わせた個別支援計画を基に、生活を制限し過ぎないように配慮しながら、楽しく快適な生活が送れるよう工夫して支援を行っています

個々のアセスメントシートに目を通すと、その利用者がどのような生活を送ってきたのかがよく分かります。グループホーム入居前の生活を丁寧に把握し、利用者の意思決定支援を大切にしながら、それぞれの趣味や嗜好が継続できるように配慮しています。障がい別の特性と配慮等に関するマニュアルを備えるほか、利用者一人ひとりの意向や特性、状況に合わせた個別支援計画を作成し、毎月の事業所会議で話し合った内容を随時、反映させています。この個別支援計画を基に、きめ細やかな支援を提供することができています。グループホームは生活の場であると捉え、個々の楽しみが奪われないよう生活を制限し過ぎることなく、快適な生活が送れるよう工夫して支援を行っていることが、個別支援計画からもうかがうことができました。

○管理者がホーム全体の情報を把握し、職員の相談・指導、研修、情報共有を徹底することで、利用者の安全を確保し、職員にも安心感を提供しています

サービス管理責任者を兼務する管理者は、毎月の事業所会議の運営や新人職員のOJT、ホームの4棟各棟への巡回指導・面談等を通して、職員の相談・指導、研修にあたっています。また、職員の意見を聞き、事業所運営や利用者支援に反映させることに努めています。特に安全面には十分に配慮し、ヒヤリハットや事故の報告と定期的な集計・分析を通して、予防・再発防止対策を全職員に周知徹底しています。職員は、利用者の様子で気になることがあれば都度、対応した内容も含めて申し送りノートへ記載したり、緊急の場合は電話連絡をして管理者へ報告し、迅速な対応、解決につなげています。何かが起きる前に「何かが起きそう」と職員が感じたことを拾い、一つずつ対応方法を検討し、明確にしていくことで、利用者の安全を確保し、満足度を高めています。職員からも、管理者の対応への好意的な声が多く寄せられており、利用者支援に日夜従事する職員に安心感を提供していることがうかがえます。

◇特にコメントを要する点

○ホームの事業計画書は、運営目標の進捗・達成状況の評価が行えるようにするとともに、職員、利用者、家族への説明を充実させていくことが望まれます

法人のビジョン2021を踏まえて、法人及びホームの単年度の事業計画書を策定しています。ホームの事業計画書には、事業所概要、運営目標、拠点共通項目、年間予定表等を掲載しています。取り組みの実施時期や内容、頻度等を詳細に設定している点は評価できますが、運営目標には数値目標や具体的な成果等も設定し、進捗・達成状況の評価を行えるようにすることが望まれます。次年度より、ホームとしての3か年計画を立てることも予定していることから、事業計画書の職員への説明をより充実させて理解を促し、ホームの全職員が一体となって運営目標等の達成を推進していく体制を作ることが期待されます。併せて、利用者や家族への分かりやすい説明方法も工夫していると良いと思われれます。

○利用者の生活や活動の幅を広げ、地域の一員となれるように、地域イベントへの積極的な参加・協力等の取り組みを具体的に進めていくことが期待されます

事業計画書の運営目標の一つに「地域との連携強化」を掲げています。ホームでは、利用者が日中通う事業所や医療機関との連携体制の構築に力を入れています。また、職員も地域資源であると捉え、職員からの地域情報の収集にも努めています。利用者は日常的に買い物等で外出し、近隣の公共・商業施設等の利用を行っているほか、町会や近隣住民とも少しづつ関わりを持ち、地域から理解が得られるよう努めています。しかし、利用者が地域活動へ参加したり、近隣住民と交流する機会は少ない状況にあります。ホームの認知度を高めるとともに、利用者の生活や活動の幅を広げ、利用者が地域の一員となれるよう、「地域イベントへの積極的な参加・協力」等の取り組みを具体的に進めていくことが期待されます。

⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

個別支援計画に基づき、ご利用者一人ひとりの意向やこれまでの生活歴を大切にしながら支援を行っている点や、生活を過度に制限せず楽しみや快適さを重視している点について評価いただいたことを大変ありがたく感じています。また、ヒヤリハットの共有や迅速な報告体制、日々の申し送りを通じた情報共有など、安全面と職員の安心感の両立についても一定の成果が出ていると受け止めています。今後も管理者として現場との対話や巡回を継続し、職員が安心して意見を出せる環境づくりと支援の質の向上に努めていきたいと考えています。一方で、地域との関わりについてはまだ発展途上であると認識しており、利用者が地域の一員として自然に参加できる機会を増やすことが課題です。今後は地域イベントへの参加やボランティア的な関わり、近隣住民との交流機会の創出などを具体的に検討し、ご利用者の生活の幅を広げる取り組みを計画的に進めていきたいと考えています。

⑥各評価項目にかかる第三者評価結果

別紙「評価細目の第三者評価結果」のとおり